別記様式第４号

会　議　等　結　果　報　告　書

会議区分	社会教育委員会議	文書番号	上富教社第1882号
		決裁期日	令和７年１２月１１日
名　称	令和７年度第３回社会教育委員兼公民館運営審議会委員会議		
日　時	令和７年１２月２日（火）　18：00～20：00		
場　所	社会教育総合センター　大集会室		
出席者	（委員）９名（欠席：池田委員） （事務局）髙松課長・村上主幹 松田主査・佐藤根主査・松田主任・永井主事・工藤主事 ・青野主事		
内　容	（進行：髙松課長） １　教育長挨拶（課長代読） ２　社会教育委員長挨拶 ３　議題 （１）報告事項 ①令和７年度社会教育関係事業の実施状況について 事務局より、配布資料に基づき説明。 ②令和７年度社会教育施設等整備状況について 事務局より、配布資料に基づき説明。 また、社会教育総合センターアリーナ天井改修工事について、現在の進行状況について説明をした。 ③研修会報告について 森委員長、下園委員より、研修会の感想を報告いただいた。 ４　研修 説明　事業内容の把握② 事務局より、第10次上富良野町社会教育中期計画に基づいた社会教育事業について説明を行った。（別紙資料のとおり） 始めに、社会教育の基盤について説明し、その後部会ごとに分かれ、事業の概要を説明した。 第１部会：生涯学習、第２部会：文化振興 最後に次回の流れについて説明を行った。 各部会での質問や意見について以下のとおり ≪第１部会≫ ・障害者の生涯学習について「障害者」という文言自体が使わない方がいいのではないか。自身の仕事（保育園）では現在「障害者」という言葉を使うことが無くなった。区分として分けてしまうと障害		

	を持っている人もいない人も行きづらいと感じるのではないか。（坂本） ・お知らせ・周知方法について、情報を発信していると思うが、その事業について、知らない、分からないことが多いと感じる。興味を持つと調べると思うが、興味を持ってもらえるように周知していく工夫が必要だと感じる（桑原） ・図書スタンプ帳奨励事業について 100 冊のハードルが高く感じた。50 冊で何かもらえるや 10 冊ごとにシールなど、あるとより多くの人が読書に親しんでくれるのではないか（若佐） ≪第２部会≫ 【学習情報の提供と相談体制の充実】 ・「教えたい人」と「学びたい人」をつなぐコーディネーターの役割となる役職をつくり、教育委員会として委嘱できないか。（森） ・学校支援地域本部が各学校に設置されているが、学校間での連携するような上部組織は無い。学校だけではなく、町全体の社会教育への参加の機会の創造のため、教育委員会（社会教育班）が中心となり、学びを提供できる人材の情報を持っている人たちの情報共有の場をつくったり、上記のようなコーディネーターに委嘱したりすることで、学校及び教育委員会としての主催事業の選択肢を広げられるのではないか。（小松田） 【団体の育成と支援】 ・文化連盟は先日設立６０年の式典を行ったが、１０年後も存続しているのか不安になるぐらい会員の減少や役員のなり手不足が深刻。現状文化連盟への加盟のメリットは文化祭の芸能発表のステージぐらいしかないのでは。（下園） ・スポーツ協会も加盟団体の減少やなり手不足は課題。協会とてしは、協会の表彰式ぐらいしか活動がない。（井上） ・団体に対しては「育成」を進める場面と「再編成」を進める場面があるのでは。現在、全盛期のように活動できていない団体があり、補助金等が効率的に使われていない状況があれば、整理するべき。（小松田） ・団体の育成の観点ではないが、上川高校での事例で、個別スポーツの部活編成が困難のため「運動部」「文化部」という２つの部活を作り、その中でやりたいことのグループを作り活動させていた。そういった形で、単独では活動が難しい場合でも人数が集まる受け皿あれば良いのでは。（森） →その取り組みは本来「地域総合型スポーツクラブ」が受け皿となるもので組織としてはあるが、現在活動されていない。（佐藤根） ・町にどのような団体があるのかを知る機会は少ないと感じる。例えばスポーツ協会や文化連盟の加盟団体（とその連絡先）を一覧にしたものを町への転入時の配布資料に入れることはできないか。自衛隊の駐屯地

	があることによる「転入者が多い」という状況は「常に新しい人材が入ってくる」ことで、団体の成長や新しいものが生まれるきっかけとなると考える。（小松田） その他 ・次回開催日　２月上旬　18時～予定 ・第５回については３月中旬の議会が終了後に行う。